

薬学研究科薬科学専攻（博士後期課程）

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

薬学研究科薬科学専攻（博士後期課程）は、薬学・薬科学分野の高度な学術的基盤を身につけ、主に薬科学分野において極めて高度の専門性と豊かな学識を有し、豊かな人間性と社会性を兼ね備え、地域および国際社会の発展を積極的にリードする人材の育成を目的としています。

本研究科薬科学専攻（博士後期課程）のカリキュラムにおいて所定の単位を修得し、提出した博士論文が専攻内規に則って審査され合格と判断された人は、以下に掲げるグローバルレベルの能力を身につけていると判断され、博士（薬科学）の学位を授与します。

- 広い教養と深い専門的な知識と技能を備え、地域社会や国際社会でリーダーとして活躍できる能力
- 極めて高度の専門性と豊かな学識を有した研究者、専門職業人として適切にふるまうことができる思考力、判断力、積極性、表現力や道徳的能力
- 社会の多様性に配慮して、主体的かつ協働的に実社会においてリーダーとして貢献できる能力
- 最近の生命科学の進展の成果を基礎として、医薬品、食品成分、環境化学物質、毒物等の化学物質の生体作用を、遺伝情報の発現・制御（ゲノミクス）、タンパク質の機能発現・制御（プロテオミクス）、代謝物の変動の制御（メタボノミクス）、および化学物質の物理化学的性質の情報に基づいて議論することができる能力
- 安全性を考慮した医薬品・化粧品の開発・研究・情報提供、安全性を考慮した機能食品の開発・研究・製造・情報提供、食品、食品の組み合わせ、食品と医薬品の組み合わせを生理学的、薬動学的、毒性学的に評価する研究・情報提供、のいずれかができる能力
- 薬科学の基礎科学的探究のみならず、先進の探求的研究を統合的に理解して、国民の健康増進にどのような帰結をもたらすかをグローバルな視点で評価し議論できる能力

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

薬学研究科薬科学専攻（博士後期課程）では、それぞれの専門分野（医薬品・化粧品機能、食品機能、食毒性）において、グローバルな視野を有する極めて高度の専門性と豊かな学識を有する研究者、専門職業人を養成することを目的とするため、以下のカリキュラムを設定しています。

- 高度先端薬科学特論、レギュラトリーサイエンス特論、ドライリサーチ特論を必修科目とし、高度な専門的な知識の修得およびグローバルな視野に立った学識の涵養を図り、ジェネラリストとして自らの研究領域を俯瞰できる能力を養成します。
- 特論演習では、各分野でそれぞれが専門とする教育・研究を対象としてスペシャリストとしてグローバルレベルの高度な知識と技能の修得を目指します。
- 博士論文研究では、主研究指導教員との綿密な協議に基づいて研究方針を策定し、副研究指導教員も加えて形成的な評価に耐えうる定期的なディスカッションをとおして課題研究を遂行し、最終的に博士論文として完成させることによりグローバルレベルの極めて高度な研究能力を養成します。
- 論文作成法特論では、研究・生命倫理に係る事柄やその他各種レギュレーションに関する事柄を理解し、適切な論文作成に向けた知識・技能・態度を身につけます。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

薬学研究科薬科学専攻（博士後期課程）では、医薬品・化粧品機能、食品機能および食毒性の各分野において、以下の学力や意欲を有する人を受け入れます。

志向性：将来の進路

- 自然科学における確かな知識とグローバルレベルで高度な研究推進能力を有する人
- 薬学・薬科学の学問的深化を追及する中で、医療との関係に興味と問題意識をもち、統合的かつグローバルレベルで専門性の高い問題解決能力を身につけたいと思う意欲のある人
- 薬学分野と食品・栄養分野の中間に位置する Pharma-Nutrition 分野（薬科学分野）を薬学的にグローバルな視点で発展させたいと思う意欲のある人

期待する能力：知識・専門性

- 薬科学専攻（博士後期課程）において研究を行うために必要な基礎学力を有する人
入学前に学習しておくことが望ましい教科・科目：英語、有機化学、物理化学、生化学、生理学、栄養学、薬理学など

期待する能力：関心・態度・人格・思考・判断・実践的スキル

- 大学または社会で学んだ教養をさらに深化させ、専門知識のさらなる向上のため、自ら積極的に学ぶ主体性と意欲をもつ人
- 論理的・科学的な思考に基づいて物事の課題や問題点を考え、解決するために意欲的に努力する人